

吹上原遺跡（第2次A区）公開資料

（平成24年9月28・29日）

和光市教育委員会生涯学習課

1 調査場所

埼玉県和光市白子3丁目11（元「花と緑のふれあい広場」）

2 調査期間

平成24年6月15日から平成24年10月末頃まで

（平成24年6月15日から重機による表土掘削及び精査。平成24年8月1日から人力による掘削開始。）

3 調査目的

和光市白子3丁目中央土地区画整理事業に伴う事前調査

4 吹上原遺跡の考古学的環境

吹上原遺跡（和光市遺跡 15）は、和光市白子3丁目4445～4450番地付近にかけて所在する。白子川左岸に面した台地上に立地し標高は22～24mを測る。白子川の沖積地との比高差は17m程である。これまでの発掘調査により、縄文時代の集落と弥生時代の墓域からなる複合遺跡である。遺跡の南西側は、崖線の上に延び隣の市場峡・市場上遺跡と接している。遺跡東側の崖下一帯は湧き水が豊富で、一部は湧き水公園として現在も市民に親しまれている。

周辺の遺跡は、本遺跡の北には吹上貝塚、吹上遺跡が存在し縄文時代中期の貝塚を伴う集落と弥生時代後期の環濠を伴う集落が検出されている。本遺跡の南側では同じ白子川の崖線の上に市場峡・市場上遺跡、城山遺跡、城山南遺跡、白子宿上遺跡が連なっている。これらの遺跡は、縄文時代と弥生時代の複合集落遺跡である。白子川右岸は東京都板橋区となり、崖線には氷川神社北方遺跡や菅原神社台地上遺跡等が分布している。これら板橋区の遺跡も、各時代が重複する複合遺跡であるが、特に白子川沿いは弥生時代と古墳時代の住居跡が密集する集落である。

5 第2次A区で現在確認されている遺構・遺物

縄文時代住居跡 20軒（前期1軒、中期19軒）

方形周溝墓 15基（弥生時代後期～古墳時代前期）

古墳 2基（古墳時代）

縄文時代中期 土器多量、縄文時代前期 ^{けつじょうのみかざり} 玦状耳飾1点

弥生時代後期から古墳時代前期 土器少量、弥生時代から古墳時代 ガラス小玉5点

6 中間所見

縄文時代中期の集落は、隣接する吹上貝塚から延長している同時期の集落と考えられ、最終的には住居跡は30軒を超えると見られる。

方形周溝墓は出土遺物が少なく時期の判別が難しいが、本調査区から北東へ100m程離れた「吹上遺跡第3次調査地点」の弥生時代後期の環濠集落に対応する墓域と考えられる。



縄文時代中期住居跡



方形周溝墓（弥生時代～古墳時代）



方形周溝墓

方形周溝墓 遺物出土状況



方形周溝墓 遺物出土状況





玦状耳飾出土状況



ガラス小玉出土状況



縄文時代住居跡、弥生時代方形周溝墓等 空中写真撮影



吹上原遺跡（2次 A 区）全体写真